

# 校長便り



7-2号

「戦争反対」の言葉に肉付けを

ご存じの通り、八月十五日は終戦記念日です。昨年、テレビで放送された特集番組で、若者が戦争について議論していました。番組中、参加者同士で「あなたは誰に対してもですか？あなたの国たは、『戦争反対』って言ってるけれど、それは誰に対してもですか？」あなたの国たは、「戦争反対」という趣旨の発言がありました。わたし私はその言葉を聞いてドキッとしました。私は「戦争反対」という言葉が、まるでいい事のように聞こえたからです。確かに世界中が「戦争反対」の声を上げてもロシアのウクライナ侵攻は未だに続いている。しかし、それでも私は「戦争反対」です。そして教職に就いた者として、子ども達にその考え方を説いています。しかし、それでも私は「戦争反対」です。そして教職に就いた者として、子ども達に、戦争の恐ろしさ、平和の尊さを伝えるためには、事実に基づいて、根拠を示し、「戦争反対」の言葉に肉付けする必要があると思います。

ここで先の大戦で亡くなつた特攻隊員の母と婚約者に宛てた手紙を紹介します。特攻隊には様々な意見がありますが私は彼らが戦争の犠牲者であることに違ひはないと考え取り上げます。この大戦で亡くなつた特攻隊員の母と婚約者に宛てた手紙を新しく生きる場を見出します。あります。穴澤は現実の世界にはも

茂木三郎海軍少尉の母親への別れの手紙  
沖縄周辺にて特攻戦死 享年一九歳

僕はもう、お母さんの顔を見られなくなるかも知れない。お母さん、良く顔を見てください。しかし、僕は何にも『カタミ』を残したくないんです。十一年も二十年も過ぎてから『カタミ』を見る母さん、僕が郡山を去る日、自分の家の上空を飛びます。それが、僕の別れのあいさつです。

穴澤利夫陸軍大尉の婚約者への遺書  
鹿児島県知覧より出撃 享年二三歳

あなたのがいなにものありません。無駄に、過去のことや過去の義理にこだわってはいけません。あなたは今後の一時一時の現実の中に生

ると思います。今年は、奇しくも戦後八年周年という節目の年に当たり、テレビや新聞、映画などでは様々な特集が組

「戦争反対」は、きれい事では決してありません。そして無力でもありません。その民意を形成するために、学校や家庭での

教育は極めて大きな役割を果たしています。今年は、奇しくも戦後八年周年という節目の年に当たり、テレビや新聞、映画などでは様々な特集が組

「聖母子像」「悲母觀音」  
三、智恵子（婚約者の名前）  
会いたい、話したい、無性に

を言つてみたいですね。



一、読みたい本 「万葉」「句集」  
二、観たい画 「聖母子像」「悲母觀音」  
三、智恵子（婚約者の名前）  
会いたい、話したい、無性に

今後は明るく朗らかに。自分も負けずに朗らかに笑つて征きます。（一部省略）

「戦争反対」は、きれい事では決してありません。そして無力でもありません。その民意を形成するために、学校や家庭での教育は極めて大きな役割を果たしています。今年は、奇しくも戦後八年周年という節目の年に当たり、テレビや新聞、映画などでは様々な特集が組まれることと想います。保護者の皆さんには、どうか子ども達に戦争について、ゲームや映画と違うその実態を学ぶ機会を与えていただきたいと思います。

